

超高齢社会を 生きる

コロナ禍で考える 認知症とともにあるまち

誰もが歳を重ね、老いという人生の最終章を迎えます。

家族や友人との別れがあり、自身の身体が弱り、もの忘れが増えていく人も少なくありません。

フォーラムではそうした現実の中で自分らしい人生をどう全うするのかを考えていきます。

今回のテーマは、「認知症があっても住み慣れた地域で暮らし続けるにはどうすればいいか」。

コロナ禍に必要な支え合いについて、県内の取り組みを紹介しながら語り合います。



インターネット環境下にあるパソコン、スマートフォンで
全国各地からご視聴いただくことができます。

2020年 11月7日(土)

開演(配信):午後1時 終演:午後3時45分(予定) ※途中休憩あり

定員 400名

参加無料

(インターネットデータ通信料のみご負担ください)

事前のお申し込みが必要です。

詳細は裏面をご覧ください。

※右のQRコードからもお申し込みが可能です。

※定員になり次第、締め切り



■お申し込みはこちらから

<https://www.npwo.or.jp/info/17323>

視聴端末ごとに、お一人ずつ事前申請が必要となります。

参加ご希望の方はホームページの申し込みフォームにて

必要事項を記入しお申し込みください。

■リモート出演

■パネルディスカッション

第1部

- ・コロナ禍を生きる ~本人・家族の思い~
- ・暮らしを支える医療とケア

第2部

- ・オンラインで紡ぐ人の絆
- ・認知症から拓く多様な社会

■パネリスト



野口 晃

かがやき在宅診療所 院長

幸せって、健康って、なんだろう。みんなで考えてみませんか？



加納 央

NPO法人ニット 理事長、
認知症対応型通所介護
デイサービスゆいま〜る戸水 管理者

「ともにあるまち」の中で「私たち」が大切にしたいものって何だろう？



角地 孝洋

小松市長寿介護課 主幹

行政だけでできることは些細なものです。
皆さんの声で、超高齢社会を楽しんでいきましょう！



端 久美

社会福祉法人特別養護老人ホーム福寿園
常務理事(兼)施設長、
一般社団法人石川県介護福祉士会 会長

人は誰でも当たり前の生活を送ることができる



道岸 奈緒美

若年性認知症のひとと家族と寄り添いつむく会 副代表、
国家公務員共済組合連合会北陸病院
患者支援センター副センター長

認知症になっても「やりたい」と思うことを話してみませんか。
仲間と出会い、カタチにしていきましょう！



イラスト/マルシェル デザイン/ハナデザイン

コロナ禍で考える 認知症とともにあるまち



パネリスト

のぐち こう

野口 晃

かがやき在宅診療所 院長

埼玉県出身。1994年金沢大学医学部卒業、金沢大学第一内科入局。消化器内科医として病院勤務しながら、2011年より在宅医療に関わり始める。2017年より本格的に在宅医療に従事し、現在かがやき在宅診療所院長として金沢市を中心に認知症、神経難病、がん患者さん等の在宅診療をおこなっている。ご自宅が療養場所の選択肢のひとつになればとの思いで日々診療している。
趣味:聞き書き。



パネリスト

かのう ひさし

加納 央

NPO法人ニット 理事長、
認知症対応型通所介護サービス
ゆいま〜る戸水 管理者

千葉県生まれ。大学入学を機に金沢に移り住み、1989年より精神科病院、介護老人保健施設で看護師として働く。その後3か所の認知症対応型グループホームで管理者を務め、2006年には石川県で初めての小規模多機能型居宅介護で立ち上げに携わり、管理者となる。2008年6月認知症をかかえた方たちの生活のサポートを目指し、NPO法人ニットを設立。理事長に就任。現在、居宅介護支援事業所1か所および認知症対応型通所介護事業所3か所を運営。また認知症対応型通所介護サービスゆいま〜る戸水の管理者としても勤務している。



パネリスト

かち たかひろ

角地 孝洋

小松市長寿介護課 主幹

2002年千葉大学看護学部を卒業し、保健師として小松市に入庁。2011年東日本大震災の被災地支援を経て、「保健師とは？」について考えるようになり、市役所に勤務しながら2012年石川県立看護大学大学院に入学。卒業後は、業務外で地域の住民や専門職と関わることが増え、その中で、「地域とつながり、地域をつくる」楽しさと大切さを知り、現在も地域に助けられながら地域包括ケアの推進に携わっている。



リモート出演

はな ぐみ

端 久美

社会福祉法人特別養護老人ホーム
福寿園 常務理事(兼)施設長、
一般社団法人石川県介護福祉士会 会長

石川県穴水町生まれ。金沢市内の短大を卒業後、1983年に介護職員として福寿園に勤務。主任生活相談員、業務部長などを経て2009年より現職。一般社団法人石川県介護福祉士会会長として介護福祉士の資質の向上を願い取り組んでいる。また、自立支援介護を軸に、介護のプロ集団を目指したケアを実践。家族と地域のかけ橋になるような活動をおこなっている。



リモート出演

みちぎし なおみ

道岸 奈緒美

若年性認知症のひとと家族と寄り添いむく会 副代表、
国家公務員共済組合連合会北陸病院
患者支援センター副センター長

金沢市生まれ。東北福祉大学を卒業し、精神保健福祉士として複数の病院に勤務。2003年から国家公務員共済組合連合会北陸病院で社会福祉士として働き、現在は同病院の患者支援センターの副センター長。15年に「若年性認知症のひとと家族と寄り添いむく会」を立ち上げ、副代表を務めている。



コーディネーター

まちなが としお

町永 俊雄

福祉ジャーナリスト

1971年NHK入局。「おはようジャーナル」キャスターとして教育、健康、福祉といった生活に関わる情報番組を担当。2004年からは「福祉ネットワーク」キャスターとして、うつ、認知症、自殺対策などの現代の福祉をテーマに、共生社会の在り方をめぐり各地でシンポジウムを開催。現在は、フリーの福祉ジャーナリストとして活動を続けている。

参加お申し込みについて

インターネット環境下にあるパソコン、スマートフォンで全国各地からご視聴いただくフォーラムです。参加ご希望の方は下記ホームページの申し込みフォームにて必要事項を記入してお申し込みください。右にあるQRコードからもお申し込みいただけます。

<https://www.npwo.or.jp/info/17323>

- ※お申し込みいただいた方には「受付確認メール」を返信いたします。
- ※10月29日以降に「視聴の手引き」など、本フォーラムに関する資料を郵送いたします。
- ※参加申込の方の閲覧可能なホームページのアドレスとパスワードなどを11月2日ごろにメールにて連絡いたします。
- ※受信拒否設定などをされている方は、あらかじめ npwo.or.jp からメールを受信できるように設定の変更をお願いいたします。

また、フリーメールアドレスで申し込まれた場合は、こちらからお送りするメールを受信できないことがあります。

- ※個人情報は適切に管理し、本フォーラムの連絡のみに使用いたします。
- ※11月4日を過ぎてもメールが届かない場合は、下記問い合わせ先までお問い合わせください。
- ※緊急事態宣言の発出などにより変更が生じた場合は、NHK厚生文化事業団のホームページ(<https://www.npwo.or.jp/>)にてお知らせいたします。

視聴上の注意

- ※Wi-Fi(無線)接続の場合、状況により映像や音声途切れる場合があります。長時間になりますので、3G/4G/LTE回線で視聴いただくと、データ通信量が決められた上限に達してしまう場合がございますのでご注意ください。

問い合わせ

NHK厚生文化事業団「オンラインフォーラム 超高齢社会を生きる」係
電話 03-5728-6633 (平日 午前10時~午後5時)

